

人は武力のみにて生きるにあらず、ひそかに持つ誇りによって生きる

Greatchain

January 1, 2023

「ひそかに誇りをもつ」ということには、いろんな意味がある。発達した倫理観、悪に対する敏感さ、本物を見抜く鑑識眼、付和雷同せず、軽挙妄動をしないこと、等々。とりわけ、我々を騙そうとする者たち、我々と我々の惑星をひそかに支配しようとする者たちの、狡猾さに敏感であることが含まれる。いわゆる New World Order 権力者たちのご機嫌を取るような、短絡的で、愚かで、卑劣な者たちを見抜くことである。私はこのことを何度も繰り返し主張してきた。 <https://www.dcsociety.org/2012/info2012/180314.pdf>

いったい、NHK などの主要メディアが、プーチン大統領とロシアを、「悪魔化」しようとして、正義を論ずるかのように、我々に説いて聞かせるのは、このご機嫌取りにほかならない。しかもそれは、滅びゆく者に対するご機嫌取りである。

この見えない「時の権力者」を、The Powers That Be と呼ぶことがあるが、あるとき、デイヴィッド・ウィルコックが、Ra との対話でこれを、The Powers That Were と呼んだところ、Ra は「その通りだ」と答えている。すなわち高次元存在も、時空を超えてそれを知っているのである。これは方向の定まった巨大な機関車のようなもので、我々はその向きを変えることはできない。先日、ユーチューブで、神人（かみひと）さんの話を聞いたときも、それを感じた。エドガー・ケイシーの「ロシアからの光」予言も同じことを意味している。

プーチンとロシアの滅亡を願うということは、たとえば「世界経済フォーラム」を主宰するクラウス・シュワブを讃えて、この世界を託すことである。シュワブはどう言っているか？ 昨日の Infowars 報道で彼は、「私は世界中の子どもたちを洗脳する計画をもっている」と語っている。これは良い計画なのか？ NHK はこれを支持するのか？

<https://www.infowars.com/posts/klaus-schwab-announces-plan-to-brainwash-children-worldwide/>

逆に、イーロン・マスクは、先日、「アンソニー・ファウチ博士は〈ぞっとする creepy〉人物だ、なぜなら彼の公職は、彼自身の肖像で飾られているからだ」と言った。NHK は主流

メディアと共に、こんなことを言うマスクの「言論の自由化」に抗議するつもりだろうか？ 「ツイッターの鳥かごを解放してはならない」と言うのだろうか？ なぜそういう論理になるかという、すべてが繋がっているからである。プーチンとマスク、バイデン政権とわが国政府は、明と暗の両面によって繋がっている。

先日、バイデンが、形だけクリスマスを祝って演説をしたとき、彼はイエスも神も口にしなかった。これとNHKが、ダーウィンの名を決して手放さないこととは、繋がっている。些細な事のように見えて、それは彼らにとって、恐ろしい掟破りになるのであろう。これもツイッターの鳥かごを、解放するか、閉じ込めておくかの問題、この世界の扉を自由に向かって開け放つか、閉じ込めるかの問題である。

プーチンとロシアを首尾よく攻め滅ぼしたあと、この者たちが、ウクライナを食い物にするのは目に見えている。それを狙うのは、アメリカと西側だが、過去の実績からして特に、利権を求めるのは英と米であり、そこに再び首相となった、ネタニアフのイスラエルが入ってくるだろう。それとも、これら犯罪的ルシファー信者たちが、正義に目覚めて、ウクライナに平和をもたらすなどという、とぼけた主張をする人がいるだろうか？

いったい、最初に、ロシアとウクライナの間で帰属問題が起こった、クリミア半島はどのようにして帰属が決まったのか？ ロシアが武力によって不当に強奪したのか？ もしそうなら、プーチンが「ロシア人を救い出すために戦う」と言っている意味が分からない。これはクリミア人が、モスクワのロシア人と、言語も文化も風習も、全く同じ民族だという意味であり、そういう人々の意思を「国民投票」Referendumすなわち、住民の自由意思によって決めたのである。ゼレンスキー大統領は、そのクリミアさえウクライナのものであり、メディアもその曲解を支持している。

これをどこまでも理不尽だと非難する人々のために、わかり易く言えば、こういうことである：——もし仮に（あくまで仮にだが）わが国の佐賀県の人々が、国籍は日本人だが、日常は韓国語を話し、文化も風習も韓国風の人たちだと仮定しよう。そんな場合に、韓国政府からも佐賀県からも、韓国に帰属したいという要望があれば、わが国としては「国民投票」を行った上で、投票率が96%にもなれば、これを認めざるを得ないのではなかろうか？ そういうことだが、ウクライナの場合は、クリミア半島以外にも、全く同じ条件のロシア系民族が、同じ希望をもっているだけでなく、ロシアを憎む極端な反ロシアの、ウクライナ兵から、徹底的に迫害され、民族抹殺の危険すらあるのが現状である。ロシア政府がこれを救おうと必死になるのは、当たり前ではないか？

過激な反ロシアのウクライナ兵さえいなければ、ウクライナに住むロシア人たちも、「飛地」のような形のままで、公平なウクライナ憲法（もしそれがあれば）に従って生活するはず

である。それをそうさせないように、双方に対して敵意を煽り、燃え上がらせたのが、NATO と英米、それに日本を含む西側諸国——そしてもちろん、見えない「時の権力者」である。中でも日本がここで、恐るべき軽拳によって、特別に深刻な負の遺産を背負ってしまったことは、かえすがえすも残念なことである。

ざま見ろは 禁句の武士の 彼岸花